

教員向け自己評価結果報告・分析

学校評価の一環として本校では教員向けの自己評価のアンケートを行いました。それぞれの質問について

5＝大いに当てはまる、4＝ほぼ当てはまる、3＝どちらかといえば当てはまる

2＝やや違う、1＝大いに違う

の5段階で各教員が回答しました。以下が、その結果(平均点)と分析です。関係の皆様は本校を評価いただく際の参考資料として頂ければと思います。

質問番号	質問内容	平均点	前年度平均点	順位	前年度順位
1	礼・挨拶・身だしなみの徹底のため、服装指導・登下校指導等に積極的に取り組んでいますか。	4.6	4.7	1	2
2	清掃を徹底し、担当場所の環境美化と生徒の心の成長に努めていますか。	4.5	4.6	3	4
3	生徒の変化を察し、相談にのる等、問題行動の未然防止に取り組んでいますか。	4.5	4.7	3	2
4	「いじめ防止対策基本方針」を熟知し、人権に配慮した指導をしていますか。	4.6	4.8	1	1
5	進んで研修に参加する等、自己研鑽や教育技術・知識の獲得に努めていますか。	4.1	4.2	7	7
6	校務(分掌)処理に迅速・正確に取り組んでいますか。	4.2	4.5	6	5
7	基礎的・基本的な知識および技能習得のため、わかる授業を展開していますか。	4.3	4.5	5	5
8	地域の方々の要望・意見に耳を傾け、地域連携の充実を目指していますか。	3.7	3.9	10	10
9	定期的に進路相談を行い、生徒理解に努め、進路実現を支援していますか。	4.1	4.2	7	7
10	保護者の方々と連携し、学校運営に取り組んでいますか。	4.0	4.2	9	7

分析

すべての項目で昨年度を下回る評価となりました。結果を真摯に受け止め、各業務に対してより意識的に取り組むことを心がけていく必要があります。一方で、質問項目の平均点を高い順に序列を立てた結果を昨年度のそれと比較してみると、おおむねその順位は不変であることがわかります。たとえば、質問番号の「1」「4」は昨年度同様に最も高い評価であり、反対に「5」「8」「9」「10」などは低い結果となっています。低い項目の原因としては、教員の校務によっては実践にくい業務であるためであることも考えられます。しかしその中でも質問「5」については、全教員に関係する内容であるので、研究と修養に引き続き意識して努めていかなければなりません。

また、それぞれの質問項目に対して、教員が「大いに取り組んでいる」と自信を持って言うことのできない状態でその業務に当たっていると読むこともできます。今後は業務に対して積極的に実施し、お互いに達成感を共有し合う環境作りなど、職場環境を明るくしていくことが、教員の自信につながり、よりよい校務の実践につながるとも思います。

質問番号「6」の-0.3ポイントが今回もっとも大きな下げ幅となりました。教員減に伴った校務分掌の集中が「迅速・正確」な取り組みを阻害する一因となっているかもしれません。今後、校務の整理、スクラップアンドビルドの特にスクラップを実施し、より教育的効果の得られる活動に注力していくことが不可欠でしょう。

昨年度から続けて「1」「3」「4」のような、生徒への生活指導等の項目に対して高得点で、このことは、教職員全体が一丸となって、生徒指導・生活指導に取り組んでいる結果だと思われます。今後とも生徒の学校生活を第一に、教育的愛情と使命を持って本校の教育課題に取り組んでまいります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、この後もご指導・ご協力のほどよろしくお願いいたします。